

平成31年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
 成果報告書

団 体 名	神奈川県	
施 設 名	神奈川県立青少年センター	
助 成 対 象 活 動 名	普及啓発事業	
内定額(総額)	1,604	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人 材 養 成 事 業	0	(千円)
普 及 啓 発 事 業	1,604	(千円)





(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	児童文化活動推進事業 (かながわ人形劇 フェスティバル)	令和2年2月22日・ 23日	①県内で人形劇や影絵などの活動を行っているアマチュアグループ(7団体)による上演 ②プロの人形劇団体(人形劇団プーク)によるモデル公演 ③講師による講評・意見交換 講師:月永勉(デザインルーム美研主宰)、西上寛樹(シナリオ工房天邪鬼主宰)	目標値	入場者: 400名 参加者: 10団体
		スタジオ HIKARI		実績値	入場者: 212名 参加者: 7団体
2	小学校演劇創造活動事業(小 学校演劇発表会)	令和2年2月15日	県内から申込みのあった小学校5校による上演 講師:小川信夫(劇作家)、石坂慎二(演劇評論家)	目標値	参加校 8~11校 1,000名
		紅葉坂ホール		実績値	参加校5校 1,000名
3	中学校演劇創造活動事業	令和元年8月2日~ 令和2年2月8日	①中学校創作劇発表会 ②中学校演劇講習会 ③中学校演劇発表会 ④演劇部お助け講座(4会場) 講師:斉藤俊雄(劇作家、中学校演劇部顧問)、篠原久美子(劇作家、演出家)ほか	目標値	①1,800名 ②1,300名 ③1,800名 ④360名
		紅葉坂ホールほか		実績値	①1,345名 ②1,254名 ③1,586名 ④318名
4	高等学校演劇創造活動事業	令和元年7月30日 ~令和2年2月2日	①高等学校演劇講習会 ②高等学校演劇発表会 ③演劇部お助け講座(4会場) 講師:見上裕昭(俳優、演出家)、カワイヒロコ(振付家、演出家)、岩瀬千尋(高校演劇指導者)ほか	目標値	①700名 ②1,500名 ③160名
		紅葉坂ホールほか		実績値	①629名 ②1,541名 ③82名
5	演劇指導者のための 実践的ワークショップ	令和2年1月13日	舞台づくり・照明・音響の3コースに分かれ、ホールの舞台機構を実際に扱いながらの実践的なプログラムとする。 講師:青少年センター舞台トータルコーディネーター、(株)パシフィックアートセンター舞台技術者6名	目標値	30名
		紅葉坂ホール		実績値	28名
6	青少年舞踊創造活動事業	令和元年8月7日 ~11月3日	①ダンス講習会 ②ダンス発表会 講師:KENTARO!!(TOKYO ELECTROCK STAIRS 主宰)、北尾亘(Baobab 主宰)ほか	目標値	①400名 ②1,600名
		紅葉坂ホールほか		実績値	①487名 ②1,873名
7	舞台表現 エンパワーメントプロジェクト	令和元年9月22日 ※一部事業中止	①学校演劇交流フェスティバル「創作のためのスキルアップクラス」 ②青少年の舞台表現のためのスキルアップクラス(映像・舞台美術・ダンス)※新型コロナウイルス感染症予防のため中止 講師:松井周(劇作家・演出家)、杉山至(舞台美術家)ほか	目標値	①②合計 400名
		紅葉坂ホールほか		実績値	①136名 ②中止

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>半世紀以上にわたって、神奈川県の子ども・青少年が舞台芸術に触れることを通して豊かな心や創造性、コミュニケーション能力を育むことを目指し、また、時代や社会の要請に応える取組内容を意識して取り組む県立施設として、県域全体を意識して事業展開を行っており、事業全般において、学校演劇関係団体（県中学校文化連盟・県高等学校文化連盟）、ダンス関係団体（県高等学校体育連盟）との強い連携を活かして、舞台芸術の持つ力を子ども・青少年に届けることを意識して、演劇やダンスの発表会・講習会に取り組んでいる。</p> <p>平成31年度は、定型化していた取組内容を見直し、全国区で活躍する人材を発表会の講師・審査員に起用し、講習会ではプロの演劇人や舞踊家を起用するとともに、講師の数も増やし、きめ細かい対応ができる体制とすることで事業効果を上げ、青少年の舞台芸術活動の更なる促進を図ることができた。また、青少年センターから比較的遠隔地に立地している学校の生徒に対しては、アウトリーチ事業を行うことで補完した。なお、当初9月に予定していた「演劇づくり実践的ワークショップ」について、学校行事と重なったため、参加を見合わせる学校が多いことが見込まれたことから、実施時期を1月に変更して開催した。</p> <p>一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、学校が休業し、部活動も停止となり、3月に予定していた「青少年の舞台表現のためのスキルアップクラス」については、やむなく中止とした。学校単位で受講する各種講習会とは異なり、受講者個人の資質をさらに向上させる目的で設定した新規事業であっただけに、実施できなかったことが悔やまれる。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>新型コロナウイルス感染症の拡大防止による新規事業の中止はあったものの、そのほかの事業は、青少年の舞台芸術振興の拠点として長年にわたり継続して行っている事業であり、参加者のニーズも非常に高いものとなっている。取組内容をさらにブラッシュアップすることにより、参加者の興味を引く、創造を掻き立てるといった、参加者主体の事業を継続していくことで、子ども・青少年の豊かな心や創造性、コミュニケーション能力を育む、さらなる事業効果が期待できる。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

入場者・参加者数については、事業全体で目標値の 91.5%、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた児童文化活動推進事業（かながわ人形劇フェスティバル）及び舞台表現エンパワーメントプロジェクトを除くと、95.2%を得ることができた。

目標値の 53.0%という結果に終わった2月末開催の児童文化活動推進事業については、鑑賞希望者に乳幼児が多いという事業の特性もあり、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、鑑賞を見合わせた保護者が多かったのではないかと思われる。

舞台表現エンパワーメントプロジェクトについては、9月に実施した「学校演劇交流フェスティバル」と3月に実施予定としていた「青少年の舞台表現のためのスキルアップクラス」の参加者の合計で目標値を定めたが、新型コロナウイルスの影響でスキルアップクラスを中止したことから、34.0%と目標値の半分に満たなかった。

また、学校演劇交流フェスティバルは、中学生及び高校生を対象としたものであるが、参加者全員が中学生のみという結果に終わり、学校間の交流はあったが、中学と高校という異年齢の交流は実現できなかった。ただし、従来の学校演劇交流フェスティバルは、学校演劇に造詣が深い著名人のパネルディスカッションと、中学校・高等学校のそれぞれの演劇部が上演し、互いに鑑賞し学びあう事業であったが、平成30年度からは講師から出された課題をエチュード形式で上演し、アドバイスしてもらった劇場を使った実践的な舞台づくりを通して、スキルアップを図る参加型プログラムに変更しており、中学校演劇部と高校演劇部が「交流」するフェスティバルとしての意味合いは薄くなっている一方で、企画内容の意図が参加者にも浸透したと思われる。

発表会事業はアンケート未実施のため、満足度の指標となる数字は出していないが、講習会やワークショップ事業において、終了後のアンケートを見ると、概ね8割以上が「大変満足」「満足」と回答しており、事業について好意的に捉えられていることがうかがえた。特に、平成31年度に内容を従来のモダンダンス・ジャズダンスからコンテンポラリーダンスに変更したダンス講習会では、9割以上の受講者から高評価を得た。また、どの事業も、本助成を受けたことにより、全国区で活躍するアーティストを講師とすることが実現し、各講師は受講者から興味を引き出す効果的な講習内容を提供しており、また、受講者もそれらを吸収することにより満足感を得たと実感できた。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### 《事業期間》

学校演劇創造活動事業については学校演劇関係団体（県中学校文化連盟・県高等学校文化連盟）と、青少年舞踊創造活動事業については、ダンス関係団体（県高等学校体育連盟）と連携し、それぞれ全体のスケジュールについて調整の上で実施しており、定期試験や文化祭などの学校行事を避けて日程を設定し、当初の計画どおりに進めることができた。

演劇及びダンスの講習会は、夏休み期間中に1日半～2日で成果発表を行う日程で、ホール、スタジオ、練習室など青少年センター全体を使用して実施しているが、会場のキャパシティに余裕がなく、特定の分科会に参加者が集中する等の課題もあるため、11月から2月にかけて、会場が遠隔地のため夏の講習会に参加できない演劇部を対象に、講師が出向くアウトリーチ事業である「演劇部お助け講座」を実施し、補完している。

「演劇部お助け講座」については、高等学校演劇連盟演劇専門部の協力を得ており、参加者の多くが次年度も演劇部を引っ張っていく立場の生徒であり、後輩たちに講習会・お助け講座で学んだことを伝承する意識も高く、また、演劇部顧問教諭も熱心に受講していたことから、講師の手法が参考になったと思われ、「指導者のいない演劇部」「練習方法がわからない演劇部」などを支援するという事業目的に沿った「演劇部お助け講座」が実施できたと言える。

#### 《事業費》

本助成を受けたことで、全国区で活躍する人材を発表会の講師・審査員に起用し、講習会ではプロの演劇人や舞踊家を起用するとともに、講師の数も増やし、きめ細かい対応ができる体制とすることで事業効果を上げるなど、事業の回数や質的な水準は、当初の計画に沿ったものとなっているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、舞台表現エンパワーメントプロジェクト「青少年の舞台表現のためのスキルアップクラス」を中止としたため、当初予定額より減額となった。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

青少年センターでは創設以来、学校演劇やダンスの集大成の場として発表会や講習会を行っている。

演劇講習会、ダンス講習会とも、講師から手法を学ぶ場というだけではなく、他校の生徒との交流の場でもあり、また、成果発表では他校の演技を鑑賞することで自分たちへのフィードバックにも繋がることから、例年参加者が多く、分科会の人数調整を行っているほどである。また、中学校と高等学校の演劇発表会は、それぞれ神奈川県大会として位置づけられており、参加生徒との交流も盛んである。

一方、小学校を対象とした講習会は行っていないため、小学校演劇発表会は、日頃のクラブ活動や演劇を採り入れた総合学習の成果発表の場を提供する唯一の主催事業となっている。

ダンス発表会は、受講生がダンス講習会で習得した技術を各グループでブラッシュアップし、自分たちの成果としての発表、さらには、翌年度の県ダンスコンクール（県高等学校体育連盟主催）へ繋げている。

なお、こうした教育現場と密接に連携した県域での舞台芸術普及の取組みは、他の県立施設では行っておらず、当センターのみで実施している特徴的な取組みである。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

青少年センターは、創設以来、学校演劇やダンスの講習会や発表会を実施している中で、中高演劇・高校ダンスの県大会、中学演劇の関東大会の会場としての歴史があり、当センターのホールで演じることは中高生にとっての憧れでもあり、こうした歴史は、逗子開成高校が平成 31 年に演劇部門の全国大会で最優秀賞を獲得したことにもつながっている。

このように長年にわたり継続している演劇及びダンスの講習会、発表会、ワークショップに加え、新たにスキルアップ事業を導入したことにより、青少年センターにおける舞台芸術活動支援事業がより身近に、より親しみやすく、かつグレードアップした。特に舞台表現エンパワーメントプロジェクト「青少年の舞台表現のためのスキルアップクラス」は、大人数を対象とした講習会とは異なり、少人数制で、映像・舞台美術・ダンスとジャンルを分けて、より深く掘り下げたものとして計画した。今回は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の措置により、3月に予定されていた事業がすべて中止となったが、この事業は今後も継続していく予定としており、学校における部活動や従来の講習会・ワークショップでは得ることのできない「舞台表現の奥深さ」を追求することとしていく予定である。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

県の文化芸術振興計画に掲げた「子どもたちが豊かな心や感性をはぐくみ、調和のとれた人格形成を行う」ため「文化芸術の体験活動を推進する必要がある」ことを踏まえ、青少年センターでの取組みの最大の特徴である、鑑賞事業以外で自主事業として多数実施している演劇とダンスの「創造活動事業」については、「講習会」（体験活動）と「発表会」（創作活動）相互が連動したプログラムで構成されており、この「青少年センター方式」とも言えるプログラムは、他の県立施設や市町村文化施設での類例を見ないものである。また、県域でのアウトリーチも積極的に行っており、学校教育との連動も強固であり、こうした活動の特徴も他の施設には存在しない。

平成31年度は、児童文化推進事業におけるプロの劇団によるモデル公演の実施、講習会・発表会事業における講師、審査員のレベルアップによる実施体制の充実、アウトリーチ事業における舞台美術、映像等、時代に合った先端分野の支援実施など、取組みを一層強化・拡充することで、青少年の舞台芸術活動のさらなる促進を図ることにつながった。